

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 13 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21530148

研究課題名（和文）国連行政におけるアカウンタビリティの概念の歴史的考察と現代的展開

研究課題名（英文）Historical consideration of the concept of accountability in the UN administration and its modern development

研究代表者

蓮生 郁代（HASUO Ikuyo）

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授

研究者番号：80509597

研究成果の概要（和文）：本研究は、まず国連行政におけるアカウンタビリティのサブ概念が歴史的にどのように推移してきたのかを考察し、そのうえで現代の国連のアカウンタビリティの概念が、新公共経営論導入により結果志向型管理に多大な影響を受けていることを明らかにした。そして、結果志向型管理方式の導入に伴い生じた様々な問題を、人的管理方式のイノベーションや国連における人事訴訟などの内部司法改革の観点などから分析し、将来の方向性を探った。

研究成果の概要（英文）：This study identified historical transition of sub-concepts of accountability in the United Nations administration from a historical perspective. Further, it analyzed the issues related to the modern concept of accountability in the UN -performance-based accountability backed by the results-based management- from the standpoint of administrative control as well as the administrative management, with a particular emphasis of human-resources management reforms and reforms of the administration of justice in the UN.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	0	0	0
2013年度	0	0	0
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：国連、アカウンタビリティ、新公共経営論、アカウンタビリティの階段、イラク石油食糧交換計画、結果志向型管理

1. 研究開始当初の背景

1989年のベルリンの壁の崩壊は、国連の

機能や意義を劇的に変化させた。それと同時に、国連の行政能力が、平和維持活動や緊急援助活動などの行政機能の多様化と拡大に

追いつかないという問題が生じるようになり、国連行政に関する国連の説明責任（アカウンタビリティー）の向上という問題が生じることとなった。

しかし、従来国連行政のアカウンタビリティーの向上という問題に関しては、学術的なアプローチよりも、実務的なアプローチのほうが主体だった。とりわけ国連行政により密接な関連を持つ行政学あるいは公的監査理論というような専門分野においては、ほとんど取り組まれてこなかった。

2. 研究の目的

国連行政におけるアカウンタビリティーのサブ概念の歴史的推移をまず解明する。さらに、現代の国連行政のアカウンタビリティーの概念が抱える諸問題を明らかにし、それを分析する。具体的には、次の2点を解明することを目的とする。

(1) 国連における行政統制の制度的発展と総括管理の手法の歴史的考察の解明

(2) 新公共経営論導入が現代の国連行政に与えた影響の考察とその評価の解明

3. 研究の方法

(1) 国連における行政統制の制度的発展と総括管理の手法の歴史的考察

国連におけるアカウンタビリティーのサブ概念の歴史的推移を、国連大学東京本部のライブラリー所蔵資料や、国連事務局ニューヨーク本部の行政資料などを活用し、実証的に考察する。

さらに、J. D. Stewart の「アカウンタビリ

ティーの階段」説による、公的セクターにおけるサブ概念の推移のモデルとの相違を明らかにする。

(2) 新公共経営論導入が現代の国連行政に与えた影響の考察とその評価

結果志向型予算方式導入の評価を実証的に行う。

具体的には、結果志向型予算方式の導入、人的資源管理方式の導入、「司法の運営」

(administration of justice) のあり方の制度改革などの側面から、新公共経営論導入の影響を考察する。

4. 研究成果

(1) 国連における行政統制の制度的発展と総括管理の手法の歴史的考察

国連におけるアカウンタビリティーのサブ概念の歴史的推移の過程を明らかにした。さらに、J. D. Stewart のモデルとの相違がなぜ起きたのかという問題に対しては、現在の国連がまだ Stewart の言うところの第3段階のアカウンタビリティーである、パフォーマンス・アカウンタビリティーを模索している段階であるに過ぎないことが、その主たる原因と考えられるという仮説を提示した。

国連におけるサブ概念の推移

国連の行政区分	代表的行政手法	アカウンタビリティのサブ概念
第1期 (1945-74年)	法規やプロセスの遵守	合規性のアカウンタビリティ
第2期 (1974-1982年)	プログラム予算の導入	プロセス・アカウンタビリティ
第3期 (1982-2002年)	内部プログラム評価の導入	プログラム・アカウンタビリティ
第4期 (2002-現在)	結果志向型予算の導入	業績志向型アカウンタビリティ

(筆者作成)

(2) 新公共経営論導入が現代の国連行政に与えた影響の考察とその評価

結果志向型管理方式の導入は、国連においては予算分野における導入から漸次的に始まり、その後徐々に包括的導入へと移行していった。とりわけ人的資源管理方式の結果志向型管理の導入は、人事管理方式の抜本的なイノベーションを意図したものだったため（例：中央からフィールドへの権限の委譲などの分権化）、様々な副作用も引き起こした。その一つに人事関係の訴訟の頻発化があり、それは、国連における「司法の運営」のあり方の抜本的改革を余儀なくした。本研究においては、(旧)国連行政裁判所の2審制化についても考察し、それに対し積極的な評価を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

① 蓮生郁代、「国際機関の評価：第2章 国際連合（安全保障）」、外務省国連マルチ外交研究会、査読無、2013年（近日公表予定）、66-39頁。

② 蓮生郁代、「アカウンタビリティと責任の概念の関係—責任概念の生成工場としてのアカウンタビリティの概念」、『国際公共政策研究』、査読無、第15巻2号、2011年、1-17頁。

③ Ikuyo HASUO, “The UN Security Council from the perspective of transformation of the concept of accountability,” paper submitted to the panel session of 52nd International Studies Association (ISA) Annual Convention in Montreal, Canada, not peer-reviewed, 2011, 26 pages.

④ 蓮生郁代、「国連改革とアカウンタビリティの要求」、『三色旗』、査読無、751号、2010年、9-14頁。

⑤ 蓮生郁代「アカウンタビリティの意味—アカウンタビリティの概念の基本的構造」、『国際公共政策研究』、査読無、第14巻2号、2010年、1-16頁。

⑥ Ikuyo HASUO, “Demanding Accountability in Global Politics - UN Security Council Reform from perspective of Concept of Accountability,” paper

submitted to the panel session of 51st International Studies Association (ISA) Annual Convention in New Orleans, USA, not peer-reviewed, 2010, 28 pages.

[学会発表] (計3件)

① 蓮生郁代、「国連行政とアカウンタビリティの概念—オーディエンスとしての私達の役割」、人間の安全保障学会関西支部第1回研究会(招待講演)、2012年7月29日、神戸大学(兵庫県)

② Ikuyo HASUO, “The UN Security Council from the perspective of transformation of the concept of accountability,” panel session of 52nd International Studies Association (ISA) Annual Convention, 17 March 2011, Montreal, Canada.

③ Ikuyo HASUO, “Demanding Accountability in Global Politics - UN Security Council Reform from perspective of Concept of Accountability,” panel session of 51st International Studies Association (ISA) Annual Convention, 19 February 2010, New Orleans, USA.

[図書] (計2件)

① 蓮生郁代、東信堂、『国連行政とアカウンタビリティの概念—国連再生への道標』、2012年、246頁。

② Ikuyo HASUO, “A Ladder of Accountability: Analysis of Subconcepts of Managerial Accountability in the United Nations,” in Michael Ross Fowler and

Sumihiro Kuyama (eds.) *Envisioning Reform: Enhancing UN Accountability in the Twenty-First Century*, peer-reviewed, 2009, pp. 174-190.

[その他]

① ホームページ等

<http://www2.osipp.osaka-u.ac.jp/~hasuo/research.html>

② 国際法外交雑誌の拙著の書評

http://www.jsil.jp/journal_page/jrnl/111.pdf#search=%E8%93%AE%E7%94%9F%E9%83%81%E4%BB%A3

③ 日本国際連合学会の拙著の書評

<http://www.kokusai-shoin.co.jp/250.html>

④ オシップ・ニューズレター掲載の拙著の書評

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/ja/files/newsletter/No61.pdf>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

蓮生 郁代 (HASUO IKUYO)

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授

研究者番号：80509597